

育英寮田沢湖会館(秋田市)が来年の3月で閉館

秋田市千秋明德町にある学生寮の田沢湖会館が老朽化などにより
平成20年3月で60年間の歴史を閉じます。

会館の経緯

この会館の前身は田沢会館で、創始者は教育実業家の千葉源之助氏(昭和21年に秋田県で唯一、教育功勞により藍綬褒章を受章)です。千葉氏は「秋田市内に学生寮を建て、郷里の向学にもえる青少年に勉学の機会を与えたい。」という構想があり、この実現を図るべく、その当時の「秋田市田沢会(秋田市に在住する出身者の会)」の有志により木造平屋建て(約70㎡、6人定員)の寮が建設されました。

会館は昭和30年5月に田沢村に寄付され、昭和31年の町村合併により、田沢湖町の施設となり、昭和34年に名称を「田沢湖会館」に改めております。

昭和51年には、木造2階建て(203㎡、9人定員)に改築し、平成17年の町村合併により、仙北市の施設となり、現在に至っております。



昭和22年当時の写真

会館の現状

会館は、改築以来、31年が経過しており、補修による維持管理が困難になっています。また、会館までのアクセス道路が狭く、車両での通行が非常に不便な状況です。さらに施設や設備が現在の若者のニーズに合わなくなり、利用者が年々減少し、現在、定員を大きく割っています。



現在の写真

会館の閉館について

会館では、これまで約400人の学生が共同生活をしながら勉学に励んできましたが、当初、設置したときから社会の状況は大きく変化しています。現在の学生は、共同生活よりも個々の快適な生活環境を望んでおり、会館を創設したときの「青少年に勉学の機会を与える」という目的は経済情勢の変化から役目を終えました。また、会館は老朽化が進み、現状の施設で継続するのは、困難になり、来年の3月をもって閉館することになりました。

「きこえるよ 耳をすませば 心のさけび」

11月は児童虐待防止推進月間です

子どもを虐待から守るための5か条

- ①「おかしい」と感じたら迷わず連絡
(通告してください)※
- ②「しつけのつもり…」は言い訳
(子どもの立場に立って判断しましょう)
- ③ひとりで抱え込まないで
(あなたにできることから即実行しましょう)
- ④親の立場より子どもの立場
(子どもの命を最優先しましょう)
- ⑤虐待はあなたの周りでも起こりうる
(特別なことではありません)

※児童虐待防止法第6条により義務付けられています。

仙北市要保護児童対策地域協議会
(長寿子育て課 総務企画係) TEL(43)2280

ひとり親家庭に関する事業・制度のお知らせ

- ◇ひとり親家庭就業・自立支援センター事業
母子家庭の母等に対し、就業に関する相談や技能習得のための講習会の実施、就業情報の提供等のサービス(就業支援バンク)を行います。
- ◇母子寡婦福祉資金貸付金
母子家庭及び寡婦の経済的自立と生活の安定、子どもの福祉の向上を図るために、各種資金の貸付を行います。貸付審査があります。
- ◇児童扶養手当
父母が離婚し、父親のいない家庭や父親が重度の障害の状態にある家庭などで、18歳の年度末までの子どもの母親、または母親にかわってその児童を養育している方に支給される手当です。(なお、心身に中程度以上の障害がある場合には20歳未満の児童が対象になります)所得制限があります。

そのほかにもさまざまな制度があります

問合せ:長寿子育て課 総務企画係
TEL(43)2280